

## 普通なんてないこと

(原文)

宇田川 おりざ (13歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

私の価値観は、「普通なんてないこと」です。私は、二つの場面でそれに気が付くことができました。

一つ目は、新型コロナウイルスが流行りだし、学校が休校になった時のことでした。それまでできていた、マスクを着用しないで思い切り遊ぶことや、たくさん遠出をすることができなくなりました。最初は外にいる間は常にマスクを着用する生活を普通でないととらえていました。しかし、常にマスクを着用する生活に慣れてくると、それが普通であったかのように感じられてきました。この数年間、コロナと変わってきた生活様式から、『普通』が変わっていくのが人生」なのではないかと考えました。

二つ目は、感謝についての話です。私の両親は、私が小さい頃から言葉についてよく教えてくれました。バスに乗るとき、運転手に「お願いします。」と言うことも、学校などの用務員に「いつもありがとうございます。」と感謝を言葉で示すことや、ちょっとしたあいさつをすることも。小学校に入って間もない頃は、感謝の気持ちを伝えるだけで精一杯でした。しかし、年齢が上がるにつれて、言ったことによる効果について、考えられるようになりました。今では、「感謝する側もされる側も、さらにはそれを聞いた周りも幸せになるだろう」という結論に至りました。

私は、「普通なんてない」と感じてから、少しだけですが変わったことがあります。それは、周りの風景や空気などの五感を通して感じる情報が、前よりも多くなったことです。家で一番風呂に入るときに新鮮な空気や、大きい道路の少し汚れた空気などが、よくわかるようになりました。新型コロナウイルスによって分かった「明日は今日と同じとは限らない」ということによって、前より一日一日を大切に過ごせるようになったからだと思います。

私の、私らしい生き方とは、あるものに縛られず、といっても緩すぎず、自分というものを持ち続けることです。人生というのは常に楽しいことが空から降ってくるわけではありません。時には自分で作り出すことも大切です。そこで、決められた範囲内でたくさん動き回るといのが、面白いことを作り出す秘訣だと考えています。そして、自分を持ち続けること。自分の考え、意見を持ち、周りに流され過ぎない心を育むことが大切だと感じています。

このように生きることで、それぞれの個性が肯定される社会にしたいです。そのためには、それぞれが人の生き方や価値観を尊重しあい、自分が『普通』ととらえているものを周りに押し付けないことが重要であると考えています。